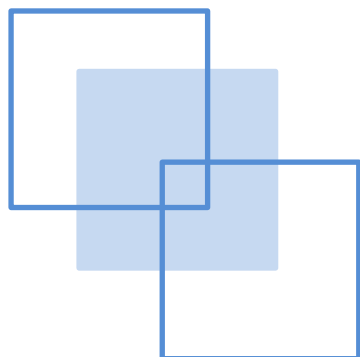


砂川市バス乗降調査 調査結果



(1) 調査目的

砂川市における**現状の路線バスの利用実態や問題個所などを把握**し、市内の最適な公共交通のあり方を検討する基礎資料を得ることが目的

(2) 調査実施日

平成25年10月20日（日）、22日（火）

(3) 調査対象路線

砂川市内を運行するバス運行路線5路線

- ①歌志内線
- ②滝芦線
- ③滝川美唄線・滝川奈井江線
- ④焼山線
- ⑤上砂川線

(4) 調査対象者

砂川市内を運行する**バス路線の砂川市内バス停留所で乗降する全ての利用者**を対象
但し、乳幼児は除く



▲対象路線図

(5) 調査実施方法

調査員がバスに乗車し、ビンゴ式アンケート票を配布し、回答してもらい回収

(6) 調査内容

調査方法	調査項目	備考
調査票 配布	▼利用目的（通勤・通学、買い物等）	
	▼バス利用頻度	
	▼乗継の有無	バスからJR・バスへの乗継有無
	▼性別	
	▼年齢	
	▼職業	
目視	▼乗車・降車バス停	バス停別、利用区間別（OD）の把握

バスを降りる前にお答え下さい

各質問について、該当箇所を1つ指で折り込み、降車時に調査員へ渡してください。

砂川市バスOD調査票
砂川市地域公共交通会議 担当者：米谷 TEL: (0125)54-2121

問1 このバスの 主な利用目的に ついて	<input type="checkbox"/> ① 通勤	<input type="checkbox"/> ② 通学	<input type="checkbox"/> ③ 通院	<input type="checkbox"/> ④ 買い物	<input type="checkbox"/> ⑤ その他 私用	<input type="checkbox"/> ⑥ 業務	<input type="checkbox"/> ⑦ 帰宅				
問2 バスに乗る前の 交通手段について	<input type="checkbox"/> ① バス	<input type="checkbox"/> ② JR	<input type="checkbox"/> ③ なし	問3 バスを降りた後の 交通手段について				<input type="checkbox"/> ① バス	<input type="checkbox"/> ② JR	<input type="checkbox"/> ③ なし	
問4 職業に ついて	<input type="checkbox"/> ① 会社員 公務員等	<input type="checkbox"/> ② 自営業	<input type="checkbox"/> ③ パート アルバイト <small>(学・生)</small>	<input type="checkbox"/> ④ 学生	<input type="checkbox"/> ⑤ 主婦	<input type="checkbox"/> ⑥ 無職 その他					
問5 年齢に ついて	<input type="checkbox"/> ① 18歳 未満	<input type="checkbox"/> ② 18～ 64歳	<input type="checkbox"/> ③ 65～ 74歳	<input type="checkbox"/> ④ 75歳 以上	問6 性別に ついて					<input type="checkbox"/> ① 男性	<input type="checkbox"/> ② 女性

ご協力ありがとうございました。降車の際に調査員にお渡し下さい。

【調査員記入欄】

時台	路線・系統名																																						
乗車		No. 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35			
降車																																							
乗車		No. 36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70			
降車																																							

【その他調査員記述欄】

◇アンケート回収結果

【平日：10月22日（火）】

乗降客数：1,454人
 配布票数：1,267票（配布率：87.1%）
 回収票数：1,244票（回収率：98.2%）

※回収票数には、アンケート票の受取は拒否されたが、調査員が乗降バス停を把握できた利用者は含む。

【休日：10月20日（日）】

乗降客数：708人
 配布票数：640票（配布率：90.4%）
 回収票数：585票（回収率：91.4%）

※回収票数には、アンケート票の受取は拒否されたが、調査員が乗降バス停を把握できた利用者は含む。

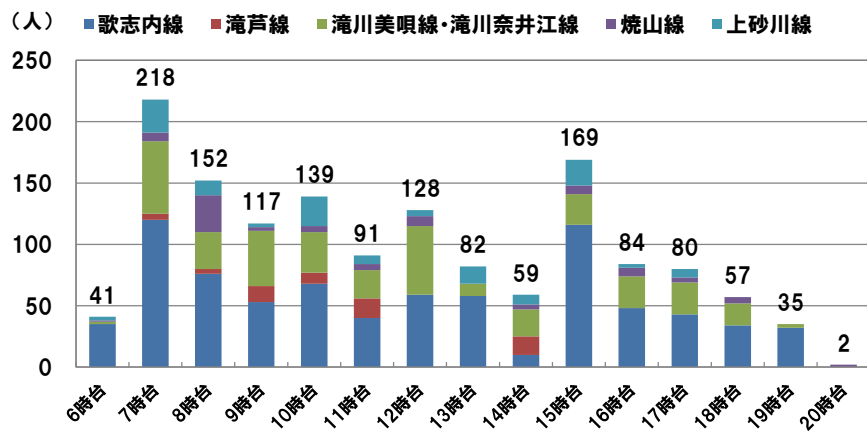
◇路線別アンケート票回収結果

路線番号	路線名	平日				休日				平休合計			
		回収票	未回収	拒否・未配布		回収票	未回収	拒否・未配布		回収票	未回収	拒否・未配布	
1	歌志内線	792	646	15	131	385	282	52	51	1,177	928	67	182
2	滝芦線	62	62	0	0	16	16	0	0	78	78	0	0
3	滝川美唄線・滝川奈井江線	378	321	4	53	191	187	2	2	569	508	6	55
4	焼山線	88	83	4	1	35	34	0	1	123	117	4	2
5	上砂川線	134	132	0	2	81	66	1	14	215	198	1	16
総計		1,454	1,244	23	187	708	585	55	68	2,162	1,829	78	255
	配布率	87.1				90.4				88.2			
	回収率	98.2				91.4				95.9			

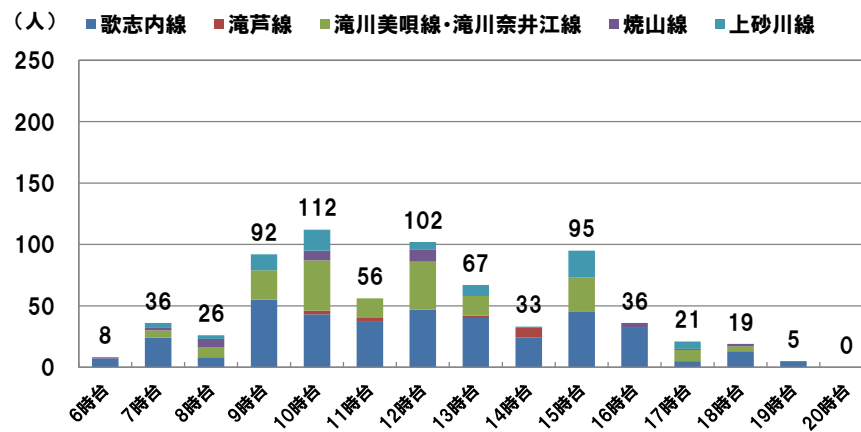
◇時間帯別利用者数

平日は「7時台」にピークを向えており、次いで「15時台」が多くなっている。
 休日では「10時台」が最も多く、次いで「12時台」周辺や「15時台」が多くなっている。

時間帯別利用者数【平日】

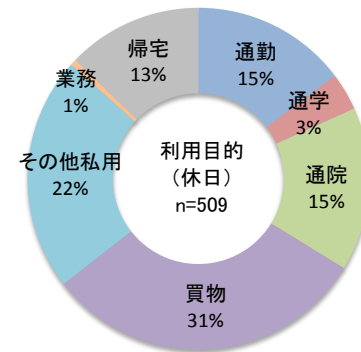
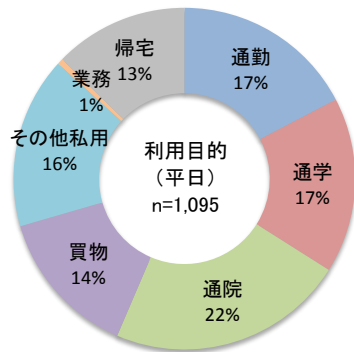


時間帯別利用者数【休日】

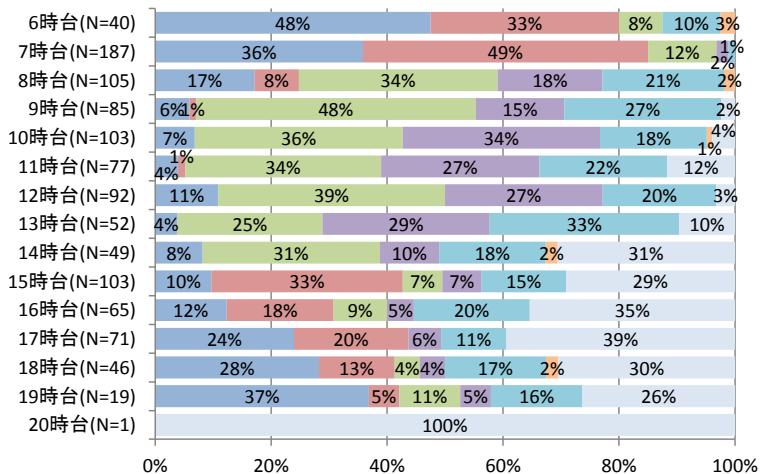


◇利用目的

平日は「通院」が最も多く、休日では「買物」が最も多い。
 時間帯別に利用目的をみると、午前中に「通院」や「買物」を行っている傾向がうかがえる。

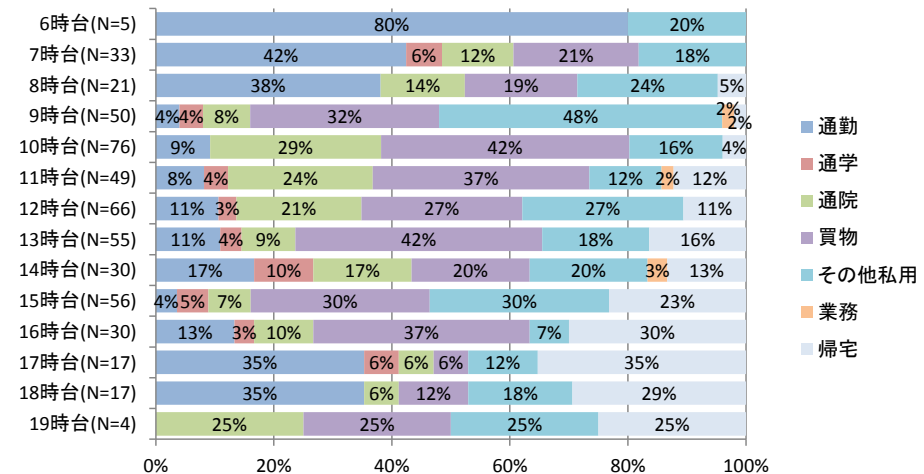


時間帯別利用目的【平日】



N=1,095

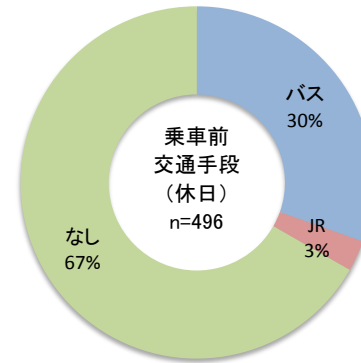
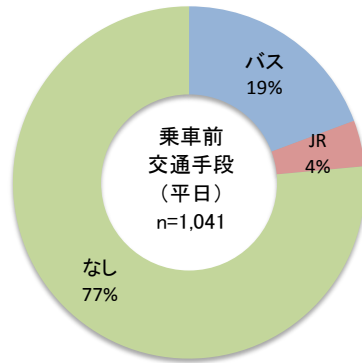
時間帯別利用目的【休日】



N=509

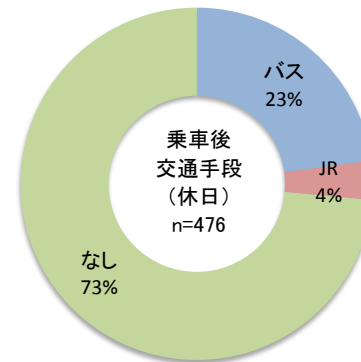
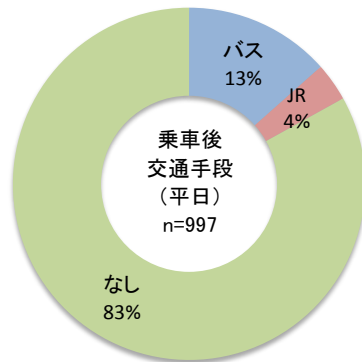
◇乗車前交通手段

平日、休日ともに乗車前は乗継「なし」が最も多い。
次いで、「バス」が多くなっている。



◇降車後交通手段

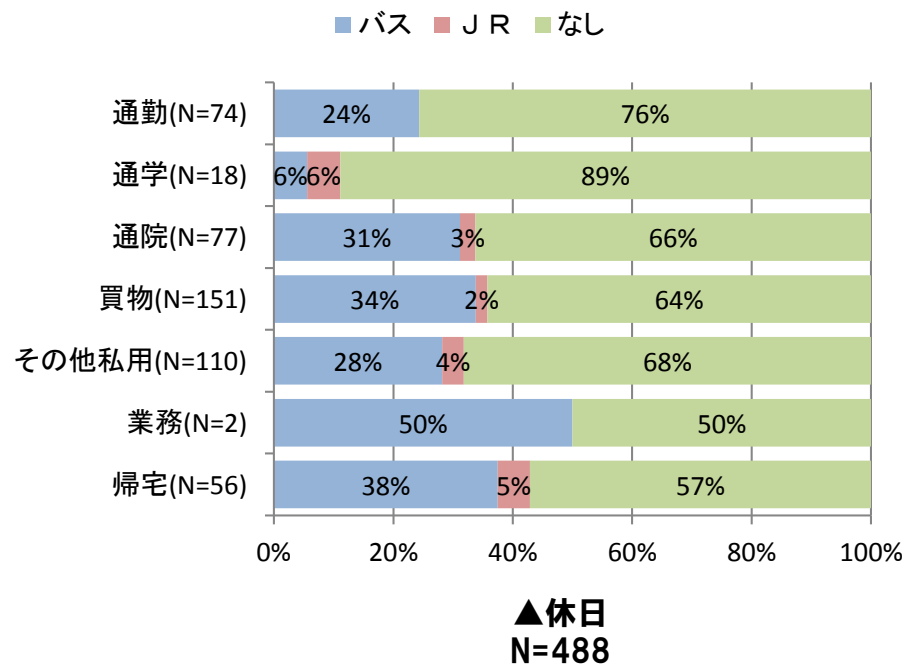
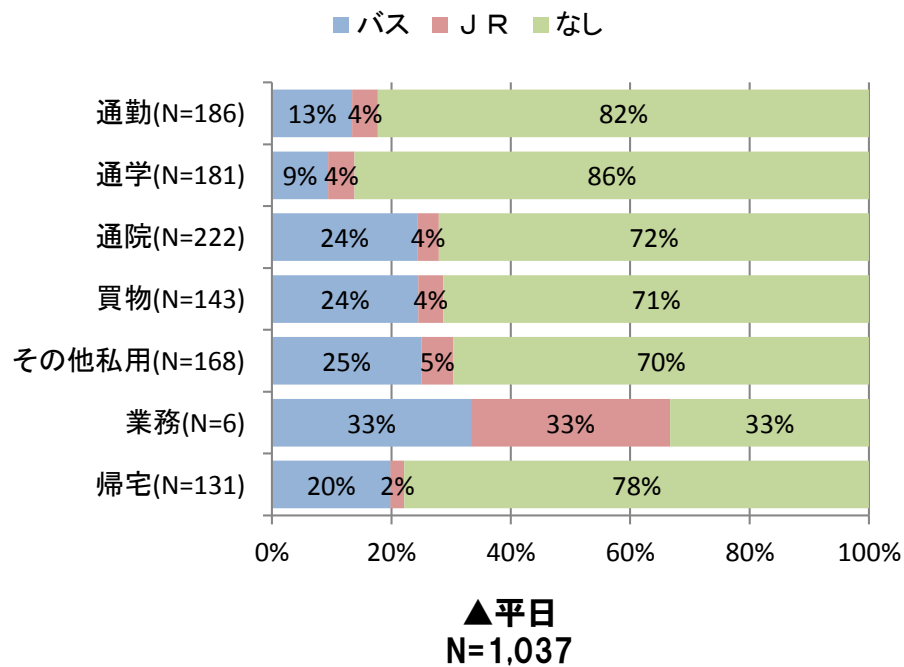
降車後の交通手段においても、平日、休日ともに乗継は「なし」が最も多く、次いで「バス」への乗継が多くなっている。



◇利用目的別乗車前交通手段

利用目的別の乗車前交通手段は、「通院」「買物」「その他私用」において、「バス」からの乗継が多くなっている。

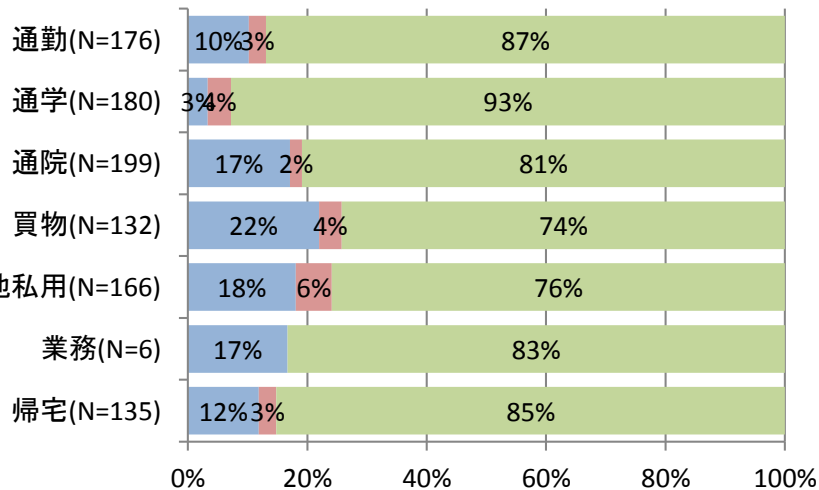
休日においては、「帰宅」における「バス」からの乗継が多くなっている。



◇利用目的別降車後交通手段

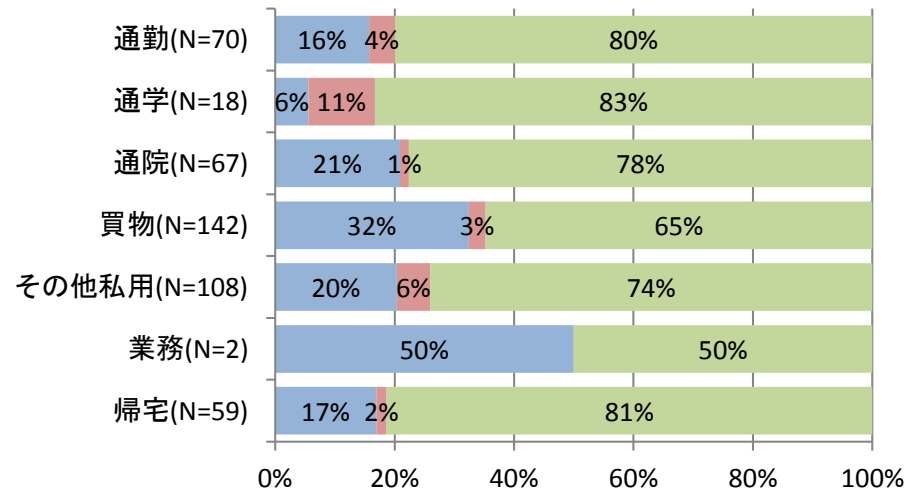
降車後の乗継をみると買物において、平日、休日ともに「バス」への乗継が多くなっている。

■バス ■JR ■なし



▲平日
N=994

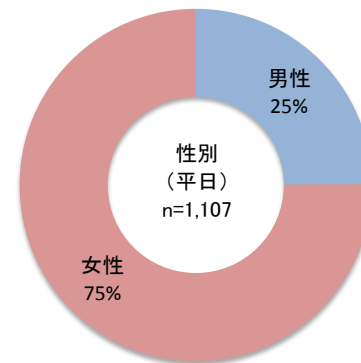
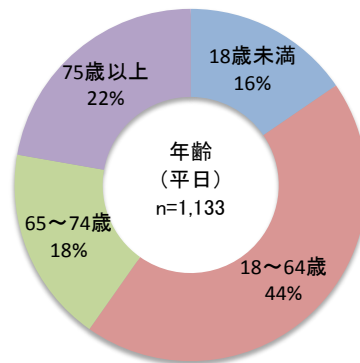
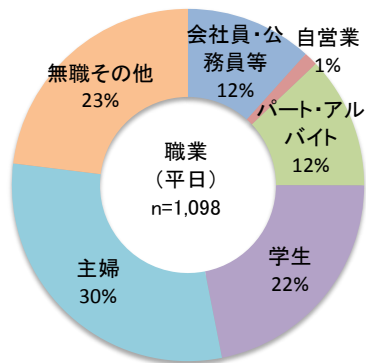
■バス ■JR ■なし



▲休日
N=466

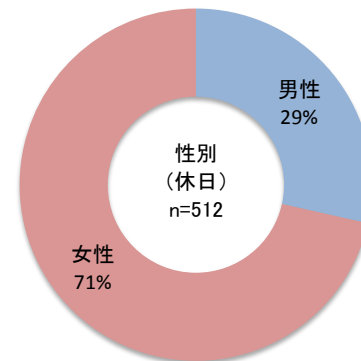
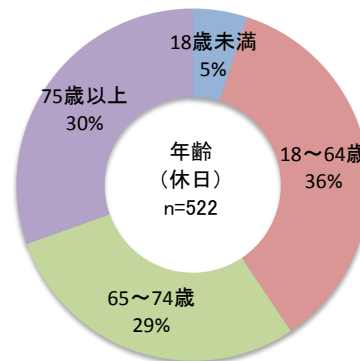
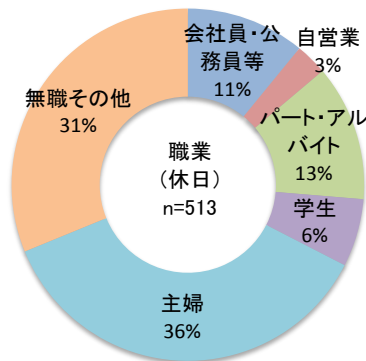
◇属性（平日）

平日におけるバスの利用属性は、「主婦」や「無職その他」「学生」の利用が多く、年齢では「18～64歳」、性別は「女性」が多い。



◇属性（休日）

休日におけるバスの利用属性は、「主婦」「無職その他」が多く、年齢では「18～64歳」「65～74歳」「75歳以上」、性別は「女性」が多い。

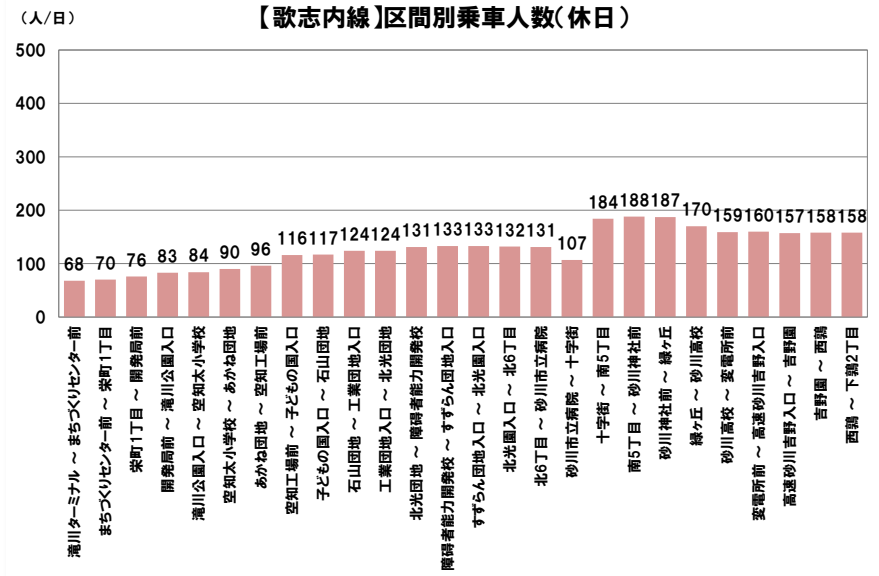
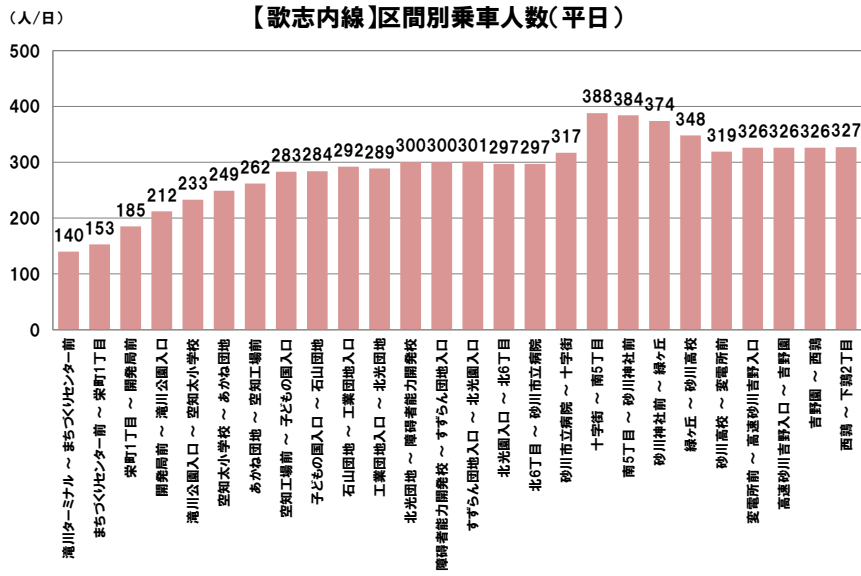


◇区間別乗車人数（歌志内線）

区間別乗車人数が最も多いのは、平日が「十字街～南5丁目」の388人/日、休日が「南5丁目～砂川神社前」の188人/日となっている。

ショッピングセンター近傍のバス停である「十字街」、砂川市立病院及びJR砂川駅近傍のバス停である「砂川市立病院」を基点として、滝川方面及び上砂川それぞれの方面の地域住民が当該路線を利用していると考えられる。

また、滝川方面の乗車人数に比べて、上砂川方面の乗車人数の方が多く、特に「十字街」から「砂川高校」の区間は学生利用が多いため、当該路線の中でも乗車人数の多い区間となっている。



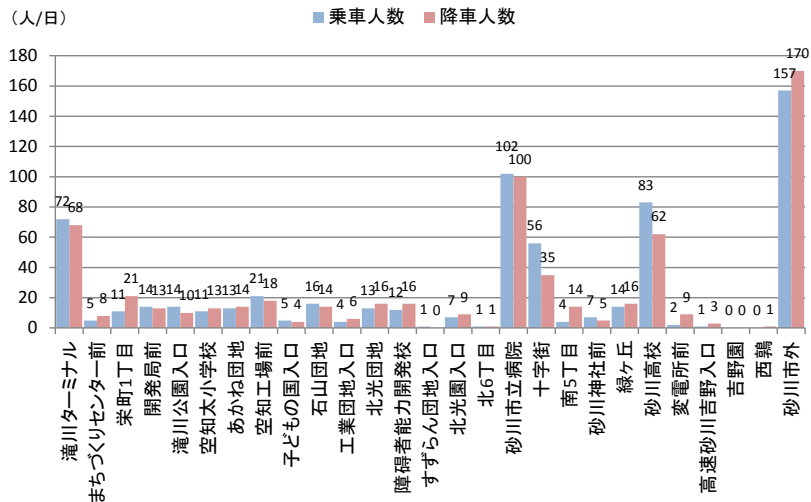
平日便数：赤平行 16便、滝川ターミナル行 17便

休日便数：赤平行 13便、滝川ターミナル行 14便

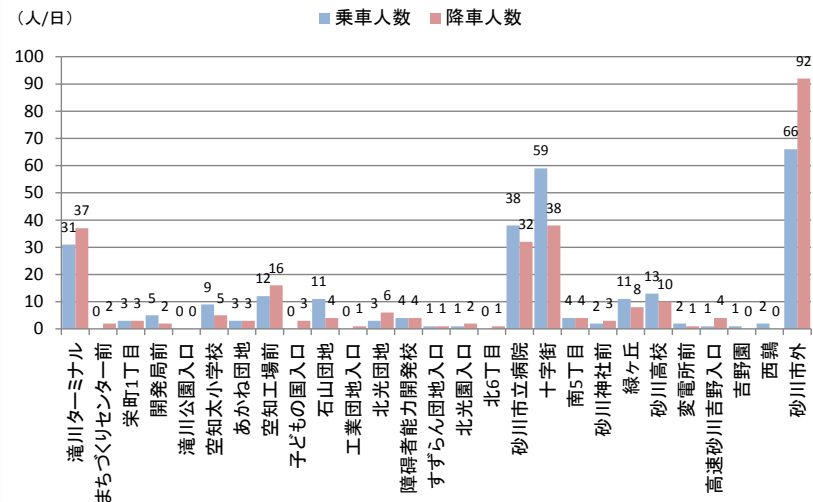
◇バス停別利用者数（歌志内線）

砂川市内でバス停別利用者数が最も多いバス停は、平日では「砂川市立病院」の202人となっている。また休日では、「十字街」の97人が最も多い。

【歌志内線】バス停別利用者数(平日)



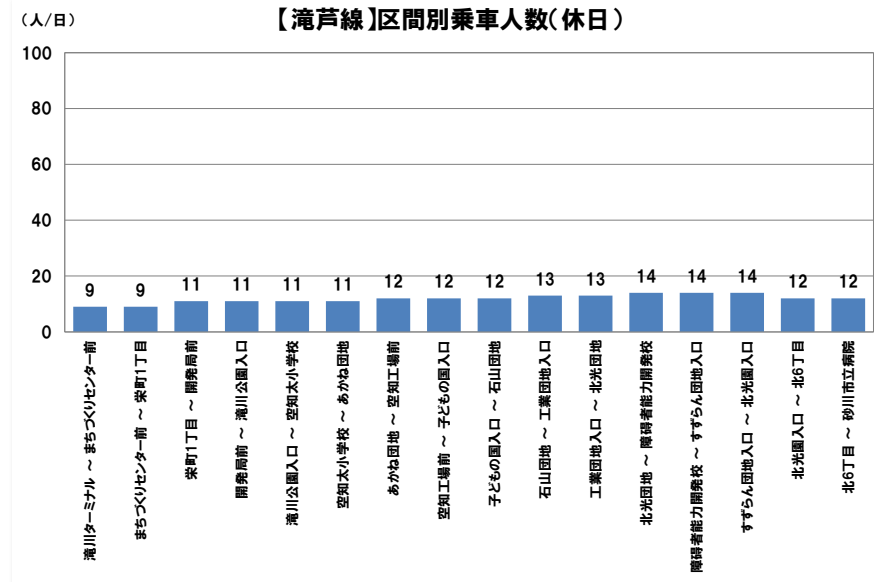
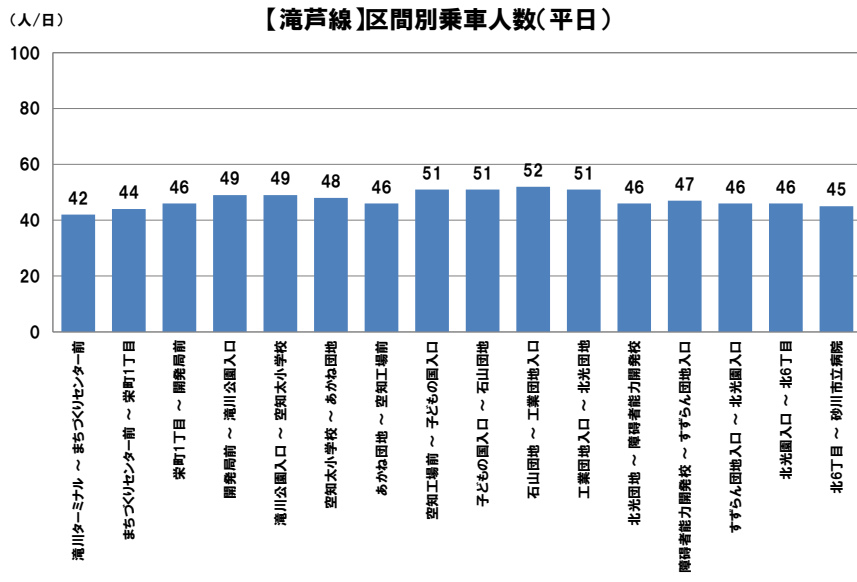
【歌志内線】バス停別利用者数(休日)



◇ 区間別乗車人数（滝芦線）

区間別乗車人数が最も多いのは、平日が「石山団地～工業団地入口」の52人/日、休日が「北光団地～障害者能力開発校」などの14人/日となっている。

平日、休日ともに区間別乗車人数の増減があまりないことから、「滝川ターミナル」での乗継客が「砂川市立病院」を目的地として、当該路線を利用していることが推察される。



平日便数：砂川市立病院行 4便、芦別行 4便

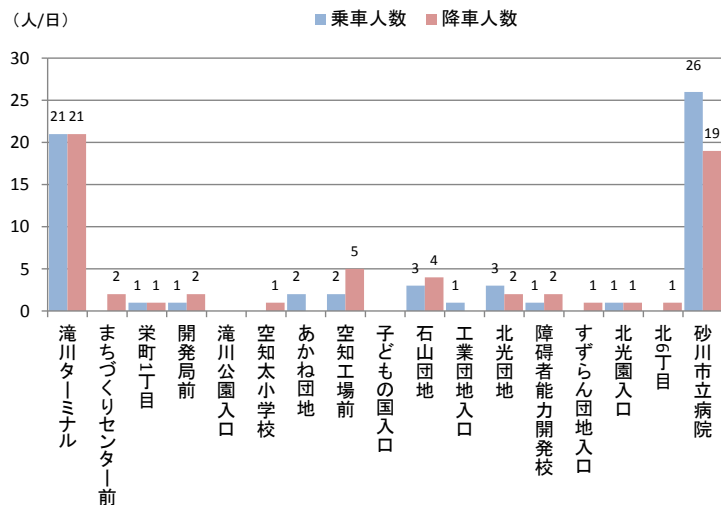
休日便数：砂川市立病院行 2便、芦別行 2便

※ 滝川ターミナル～砂川市立病院間の利用者のみを調査対象

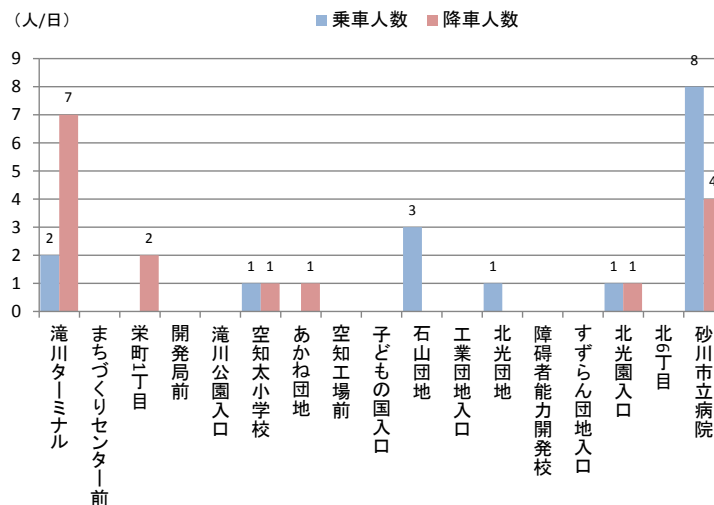
◇バス停別利用者数（滝芦線）

バス停別利用者数は、平日では「砂川市立病院」の45人が最も多い。休日では「砂川市立病院」の12人が最も多い。

【滝芦線】バス停別利用者数(平日)



【滝芦線】バス停別利用者数(休日)



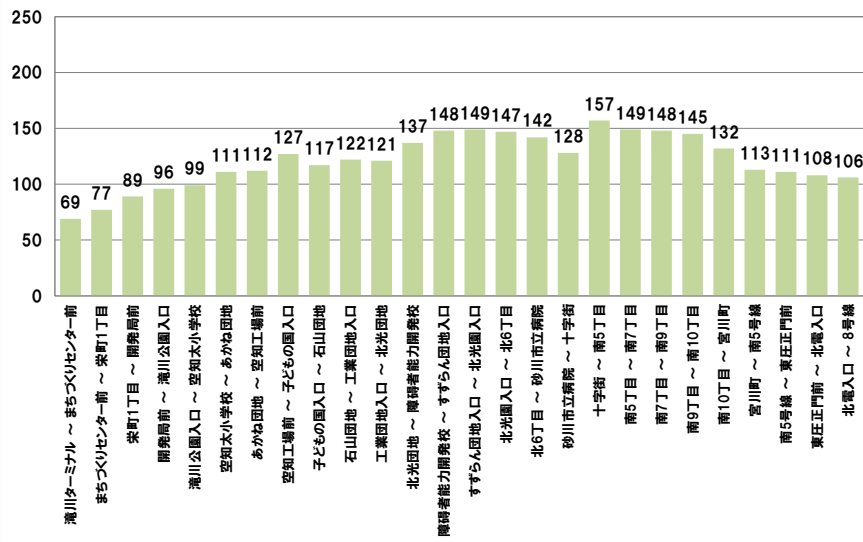
※ 滝川ターミナル～砂川市立病院間の利用者のみを調査対象

◇区間別乗車人数（滝川美唄線・滝川奈井江線）

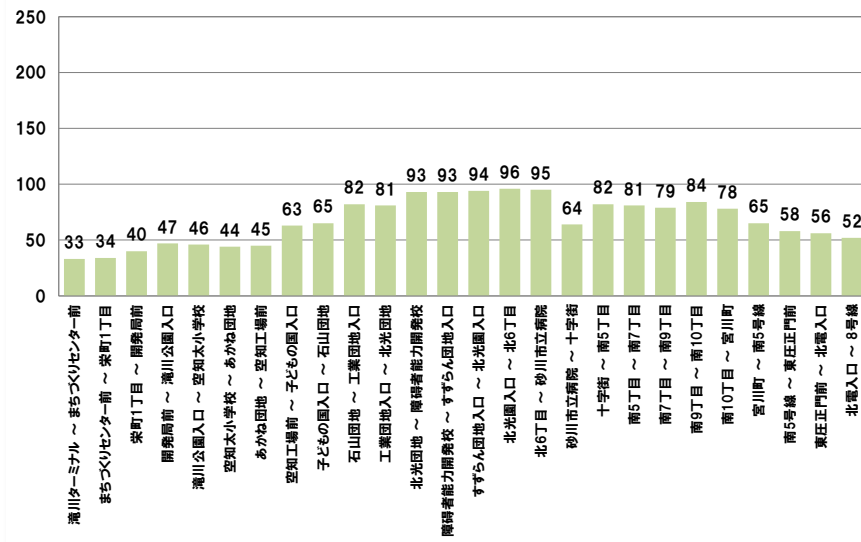
区間別乗車人数が最も多いのは、平日が「十字街～南5丁目」の157人/日、休日が「北光園入口～北6丁目」の96人/日となっている。

ショッピングセンター近傍のバス停である「十字街」、砂川市立病院及びJR砂川駅近傍のバス停である「砂川市立病院」を基点として、滝川方面及び上砂川それぞれの方面の地域住民が当該路線を利用していると考えられる。

（人/日） 【滝川美唄線・滝川奈井江線】区間別乗車人数（平日）



（人/日） 【滝川美唄線・滝川奈井江線】区間別乗車人数（休日）



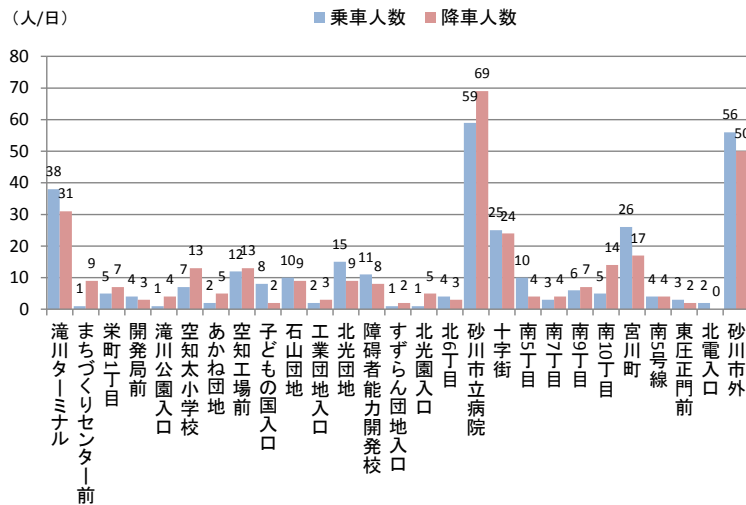
平日便数：美唄・奈井江行 12便、滝川ターミナル行 13便

休日便数：美唄・奈井江行 8便、滝川ターミナル行 8便

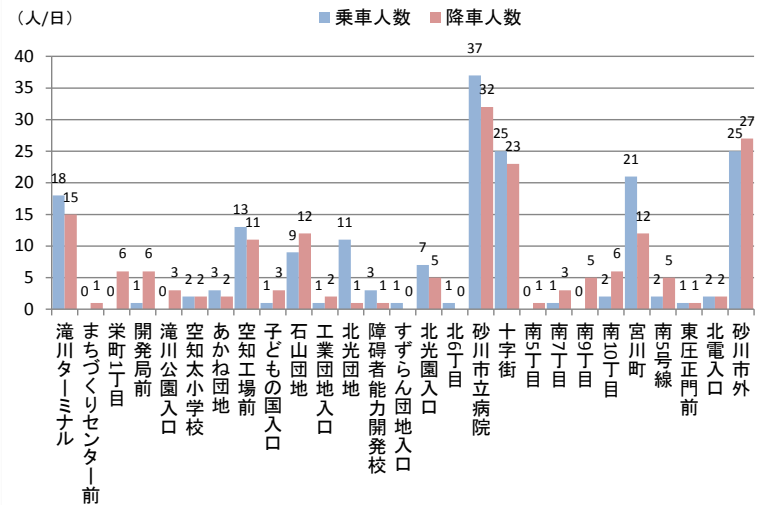
◇バス停別利用者数（滝川美唄線・滝川奈井江線）

砂川市内におけるバス停別利用者数は、平日で「砂川市立病院」の128人が最も多く、休日では「砂川市立病院」の69人が最も多くなっている。

【滝川美唄線・滝川奈井江線】バス停別利用者数(平日)



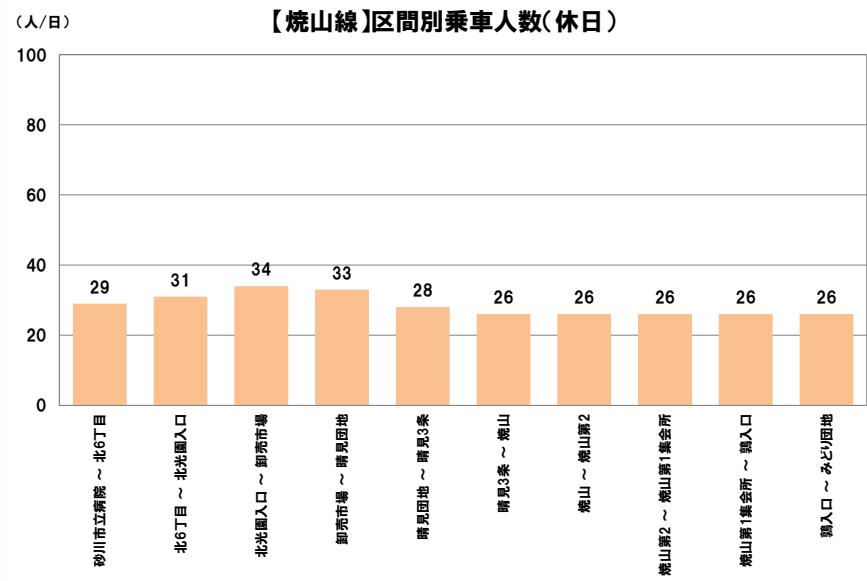
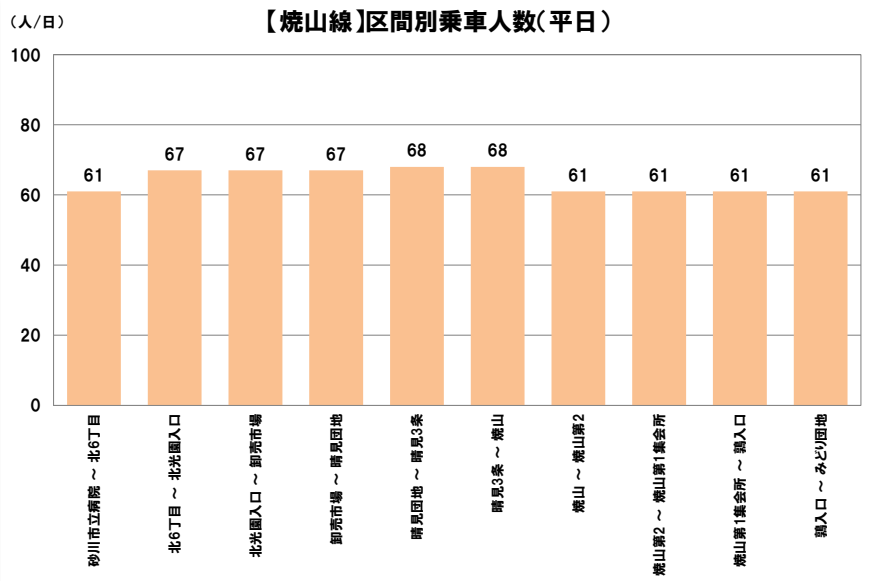
【滝川美唄線・滝川奈井江線】バス停別利用者数(休日)



◇ 区間別乗車人数（焼山線）

区間別乗車人数が最も多いのは、平日が「晴見団地～晴見3条」などの68人/日、休日が「北光園入口～卸売市場」の34人/日となっている。

平日、休日ともに区間別乗車人数の増減があまりないことから、歌志内方面の地域住民が「砂川市立病院」を目的地として、当該路線を利用していることが推察される。

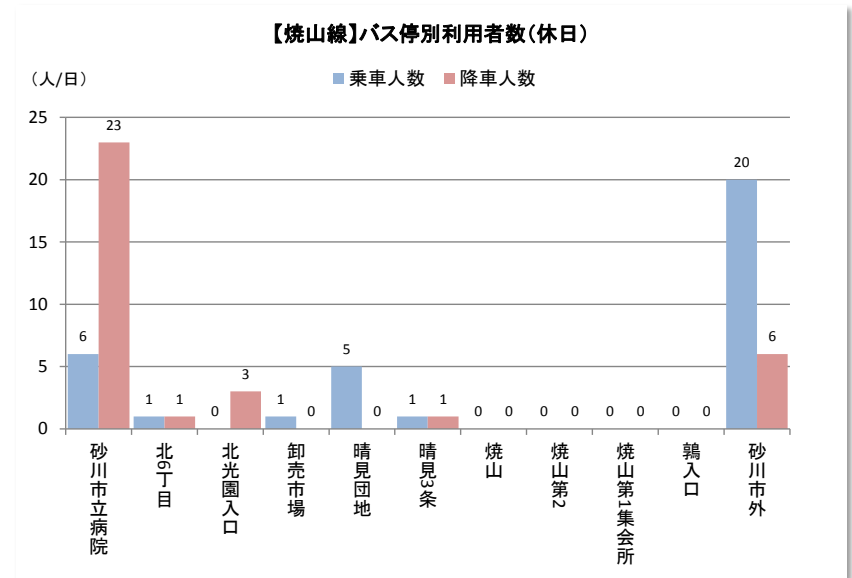
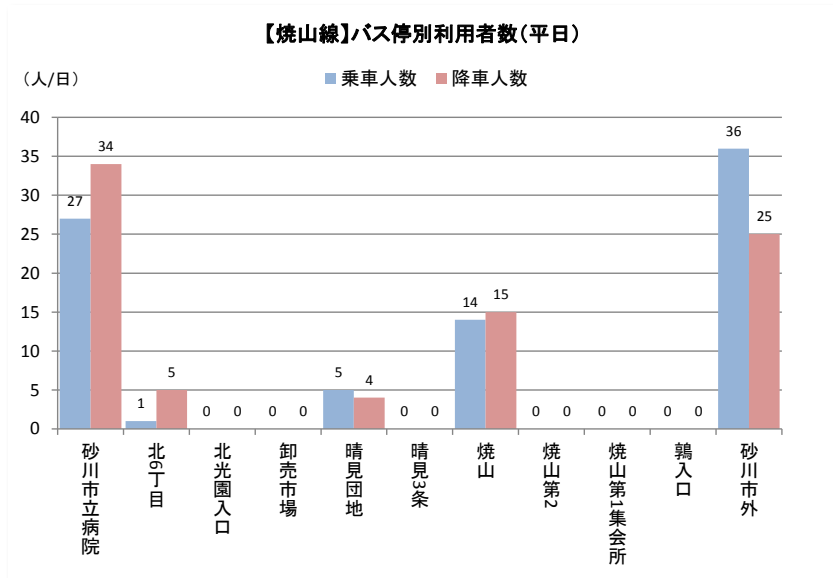


平日便数：上歌新栄行 8便、砂川市立病院行 8便

休日便数：上歌新栄行 7便、砂川市立病院行 7便

◇バス停別利用者数（焼山線）

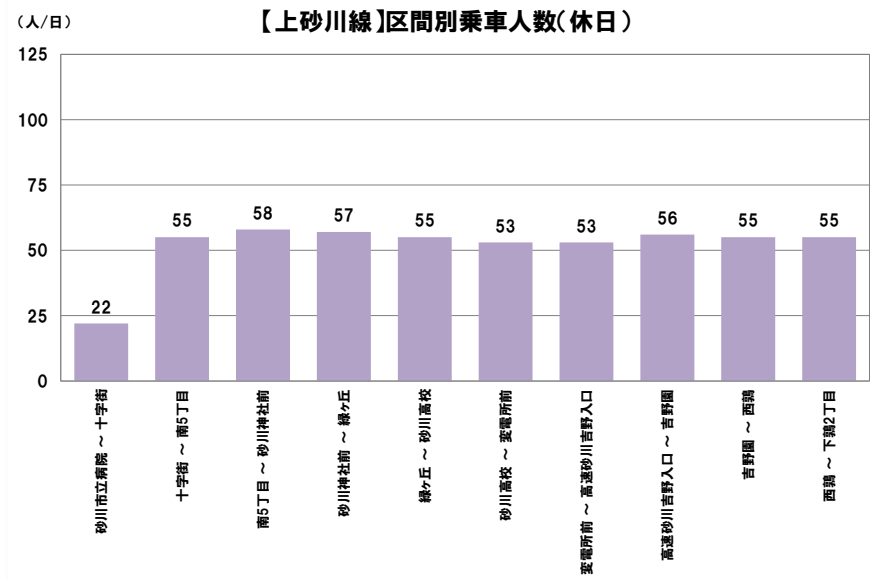
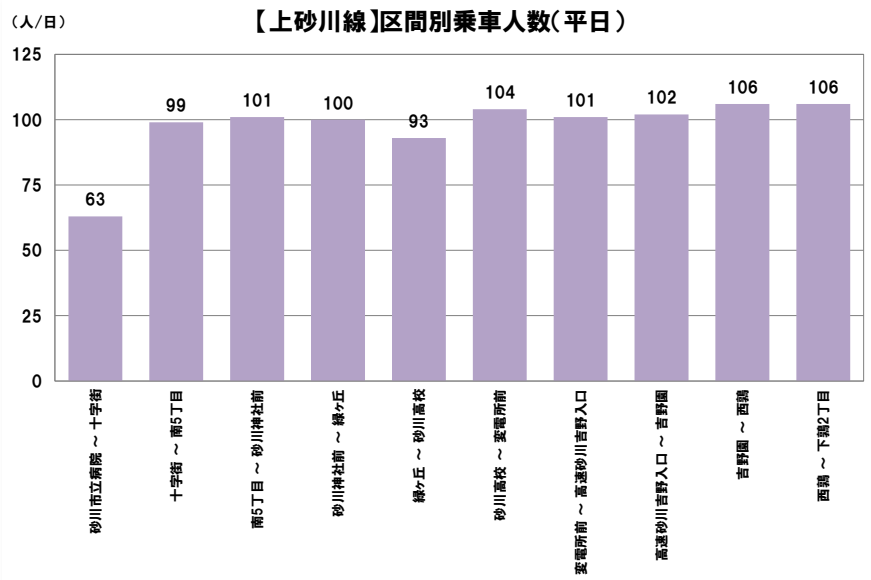
砂川市内のバス停別利用者数は、平日では「砂川市立病院」の61人が最も多く、休日においても「砂川市立病院」の29人が最も多くなっている。



◇区間別乗車人数（上砂川線）

区間別乗車人数が最も多いのは、平日が「吉野園～西鶉」などの106人/日、休日が「南5丁目～砂川神社前」の58人/日となっている。

平日、休日ともに「砂川市立病院～十字街」の区間別乗車人数は少なく、「十字街」から「下鶉2丁目」間の増減があまりないことから、上砂川方面の地域住民がショッピングセンター近傍のバス停である「十字街」を目的地として、当該路線を利用していることが推察される。



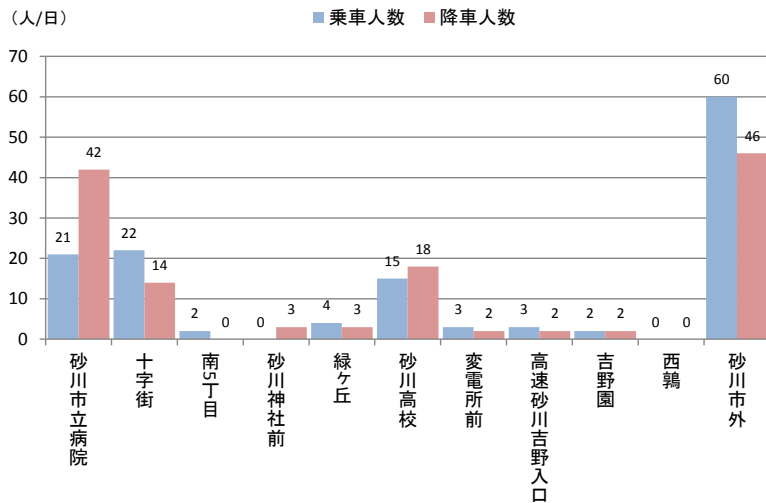
平日便数：東町・上砂川岳温泉行 10便
砂川市立病院行 11便

休日便数：東町・上砂川岳温泉行 7便
砂川市立病院行 7便

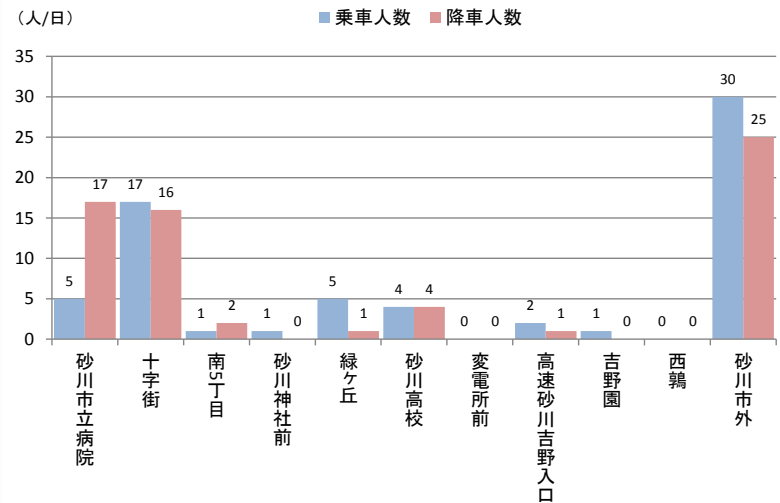
◇バス停別利用者数（上砂川線）

砂川市内におけるバス停別利用者数は、平日では「砂川市立病院」の63人が最も多い。また、休日では「十字街」の33人が最も多い。

【上砂川線】バス停別利用者数(平日)



【上砂川線】バス停別利用者数(休日)



◇まとめ

■始発・終発便の利用者は少ない

砂川市内を運行する路線バスにおいて、6時台及び20時台の利用者は他の時間帯と比較して少なくなっている。特に休日の20時台においては利用者が0人と利用者がいない状況となっている。

■主な利用目的は通院と買物

路線バス利用者の主な利用目的は、通院と買物となっている。特に平日は病院の診察曜日の関係から通院が主な利用目的となっており、休日は買物が主な利用目的となっている。

また、時間帯別の利用目的は、朝・夕においては通勤・通学や帰宅が主な利用目的であり、午前中は通院や買物となっている。

■利用者数0人のバス停の存在

各路線バスのバス停別利用者を見ると、どの路線においても乗車・降車を合わせた利用者数が0人のバス停が存在する。特に休日においては、顕著な傾向がみられる。

⇒効率的な路線バスの運行に向けて運行内容(時間帯やバス停の位置等)の見直しの必要性が示唆される。